

食学協会理事
からの
メッセージ

-title-
種と土と健康!!

佐野 正之

Profile 佐野 正行 (さの まさゆき)

国際食学協会 理事 / (株) メディカルアンドナレッジ
カンパニー 代表 / 銀座メディケアガーデンクリニック
院長 / サンフィールドクリニック / ナチュラルクリニック
代々木 医師・産業医・セカンドオピニオン専門

消化器外科医として3000人以上の方の手術に携わり、究極の生活習慣病である「がん」に対する治療を実践。現在は、食生活改善による健康指導・予防医療、セカンドオピニオン専門医、脂肪幹細胞による先進医療、労働環境・生活環境改善、気功、医療・健康教育など、病気になる前(未病時)に対応するために幅広く活動をしている。

●(株)メディカル アンド ナレッジ カンパニー
<http://www.m-k-company.jp/>



500種類以上の安全な種である固定種(自然な種)を保存・販売している野口種苗 代表の野口勲さん(左)と。

病気の治療や予防で、最も大切なことは、食生活の改善です。「安全で生命力の強い食物を適切にいただく」「自然に近い(土と触れる)環境にする」ことを基本に診療を行っています。食物の源である種の世界では、異なる性質の種を人工的に交配して作られた種である F1 種(一代雑種)が主流になっています。雑種強勢(同一種内で交配した場合、両親のいずれより大きき、病気・環境に対する抵抗性、生産性などの点で優れた形質を一代目の子孫が示す現象)という植物が持っている性質を利用して、異なる性質の植物を掛け合わせて、一代限りの優秀さを求めたものです。生育のスピードが速い、収穫量が多い、一斉に収穫できる、形や大きさが整っている、皮が厚く丈夫、などの特徴があります。見た目がきれいでも美味しそう、大量生産・収穫が可能、畑を早く回転できる(畑を有効利用できる)、輸送しやすい、販売しやすい、など、生産者や流通者にとって、とても大きなメリットがあります。

しかし、細胞の密度が粗い、味が淡泊、光合成の期間が短くビタミン・ミネラルや栄養価が低い、などのデメリットがあり、異なる性質の植物を交配することが安全だとは断定できないので、人の身体にいいものとは言えません。ミトコンドリアや核

の遺伝子の変異して、葯(おしべ先端の花粉を入れる袋)の中に花粉がなかったり、葯自体がなかったりする不健康なという株(雄性不稔)からつくられた、正常に花粉形成ができない状態の野菜が大量に流通しています。無精子症や男性器をもたないような状態の植物です。そのような野菜を毎日食べ続けると、遺伝子異常の性質は確実に次世代につながっていきますし、人の精子の数が激減している原因になっているかもしれません。種が育つ場である「土」も、化学肥料や農薬を大量に使用しすぎたため、土本来の力を発揮することが出来なくなってきています。人工的な都会での生活が主体となり、自然(土)と触れる機会が激減し、心身のバランスを崩している「人」と同じ状態です。「一粒万倍」と言われ、「1粒が1年後には1万粒になる」生命力を持っている種。この生命力を十二分に発揮できる場に土をしていくことも大切です。生命は、植物も動物も人も同じです。

健全で自然な状態の種が、本来の力を発揮できる状態にある土(生命の母)から力を頂いて成長していける環境作りがとても大切です。「自然の中で普通に育った、元気で健全な食物の命を、自然の状態の中で、感謝しながら大切にいただく!!」ことが、心身の健全につながります。